

最新データに見る荒川区の産業… 区内製造業の急減で「ものづくり」の未来は

工業統計調査
2008年速報より

日本共産党荒川区議会議員団

横山幸次

区政報告
ニュース

362

2009年10月18日
発行 日本共産党区議団
3802-4627
fax3806-9246
E-mail: arajcp@tcn-
catv.ne.jp
町屋相談室
荒川区町屋5-3-5
3895-0504

横山幸次区議のホームページを
ご覧下さい。
「横山区議」で検索し
て下さい。

**工場(事業所)減少率とも全都第一位…
区の体制強化、支援センターなど待ったなし**

東京都は、2008年12月31日現在で実施した工業統計調査の東京都分について独自に集計した「速報」を公開しています。

内容は、荒川区にとってかなりショックなものです。もともと荒川区の産業は、皮革、衣服、印刷、機械・金属加工など生活関連を中心にも多様なものづくりが集積した地域でした。

しかし、今回の調査で区内製造業の減少率、率とも全都最高となってしまいました。さらに、出荷額、付加価値額などの指標も大幅

な減少となっています。

今後、減少した産業分野やその原因などの分析が必要で、このままでは、区内のものづくりの集積、基盤が喪失しかねません。

しかし高い加工技術、伝統と歴史に彩られた職人技などこれからの新しい産業にとっても生かせる要素が

まだまだ残っています。大事な産業集積を未来のものづくりにつなぐ取り組みの強化が急がれます。

日本共産党区議団は、もろのづくり支援のために区として専門職員の配置強化、「支援センター」設置など抜本的な対策強化を求めました。区政の柱に産業振興を本気で据える施策の具体化に力を尽くします。



とある街角の町工場

荒川区の工業

	2008年	2005年	増減率
工場数	2,106	2,653	20.6%
従業者数	11,289	14,537	22.3%
出荷額等	142,609	190,154	25.0%

(出荷額: 単位 百万円 : マイナス)

東京都 区市町村工場(事業所)減少数の上位

順位	行政名	2008年	2005年	増減数	増減率
1	荒川区	2,106	2,653	547	20.6%
2	葛飾区	3,139	3,657	518	14.2%
3	墨田区	3,390	3,833	443	11.6%
4	大田区	4,351	4,778	427	8.9%
5	板橋区	1,876	2,268	392	17.3%

(東京の工業 2008年速報より)

裏面 大型店出店問題など

定例法律相談

11月 2日(月)
午後6時～8時
横山区議事務所

【定例生活相談会】
毎週水曜日 午後2時から5時
会場は、横山区議事務所です。

弁護士と横山区議が相談をお受けします。秘密は厳守します。お急ぎの場合は、北千住法律事務所の相談日などご紹介しますので、お気軽にご連絡ください。

TEL&FAX 3895-0504

不在時は、留守電へ、後で連絡します。

まちの話題あれこれ

**町屋7丁目の特養ホーム・公園用地を区「公社」が購入
26億円以上以上の空き地ができましたが、今後の整備計画は？**

町屋7丁目のホクヨープライウッド跡地が更地になっています。1ヘクタール以上の広大な土地です。ご承知のように、区は、将来3千㎡を特別養護老人ホームに、残り公園として整備する計画ですが、完成するのがどのくらい先になるのかはまだ不明です。先日、荒川区土地開発公社(以下「公社」)評議員会が開かれ、私も評議員として出席。そこで、この土地を「公社」が約26億円で10月に取得したと報告がありました。今後、区は、特養ホームや公園を事業化する段階でこの用地を「公社」から買い取ることになります。問題



町屋7丁目の1ヘクタール以上の空き地

区内で相次ぐ大型小売店出店ラッシュ… 近々10000㎡近い大型店舗も近隣区に



島忠ホームセンター 春日部本店

熊野前商店街への影響は…?

最近、尾久橋そばに大規模小売店を新設する届出が東京都にありました。敷地も10000㎡近い大規模なもの。食料品から日用雑貨まで扱うホームセンターのようです。熊野前はじめ周辺商店街への影響が心配です。

【出店計画の概要】

島忠ホームズ足立小台店 足立区小台1丁目17
敷地面積9714㎡ 店舗面積8664㎡
地下一階・地上1・2階 駐車場3～5階
開店予定日2010年3月20日
営業時間午前7時～午後9時
食料品、家具、生活関連品、フードコートなど



**区内産業の衰退と表裏一体？
増えるのは、大型スーパーとマンション**

いま区内は、大型スーパー（大型小売店舗）の出店ラッシュです。

多くは、工場や倉庫、様々な事業所の跡地などに設置されています。スーパーだけでなくマンションも同様の条件で建設されています。新しい住民のみなさんが増え、よいまちが活性化することは良いことですし、大歓迎です。

同時に、ここで見えてくるのが、産業の「衰退」と大型スーパー、マンション建設が表裏一体で進んでいることです。まとまった空き地ができる条件は、一定規模の工場や事業所の跡地です。また、荒川区では、まちの文化、コミュニケーションの中心となってきた商店街も多くながら残っています。しかし、景気の悪化や大型店の進出などで厳しい状況に置かれています。

身近なところに商店街があり、ものづくりが息づく活気あるまち…誰もが住みやすい街を探索する時期と想います。



荒川1丁目のスーパー開店であふれる自転車！

10月1日に荒川1丁目、三河島水処理センター入り口前にスーパーがオープンしました（上写真）。町屋、荒川、南千住方面から多くの区民が買い物に訪れていました。ジョイフル三ノ輪や町屋駅周辺の商店街への影響も大きいと思います。しかも自転車は店の前の駐輪場に収まらず、三河島公園前の歩道にもあふれました。

南千住スポセン近くにライフ出店計画

南千住6丁目にライフが出店を計画。地元説明では、3階建て、1・2階が売り場、3階と屋上が自動車駐車場。一定規模以上の建物は、緑地や自転車駐輪場など規定があり、事業者と荒川区で事前相談もはじまっています。敷地面積が4570㎡、建築面積が1階フロアで3600㎡、事務所など除いても実質売り場は4000㎡を超えそうです。

やはり交通、生活環境保全など対策が急がれます。



雇用からくらし、福祉… お気軽にご相談ください

雇用不安、中小企業の単価切り下げや資金繰り悪化など深刻な事態が広がっています。医療、介護も深刻です。日本共産党区議団・横山区議は、法律等の専門家、医療・福祉関係者とも連携して相談活動を行っています。

電話 3895-0504（横山事務所）
不在時は留守電にご伝言を